

日本山岳会 120 周年記念事業企画 全国山岳古道調査

(1) 概要

日本山岳会の 120 周年記念事業として、全国の山岳古道を調査し、公開します。

全国 33 支部をはじめ、できるかぎり多くの会員が調査に参加し、また地元や地元の古道研究者の協力を仰ぎながら、2025 年の発表を目指し、実施します。

発表は、HP および書籍とし、〈日本山岳会が選ぶ「日本の山岳古道 120 選」〉というタイトルを考えています。

(2) 目的

古道を文化的、歴史的、地理的（科学的）な側面から探索、調査し、記録、保全につなげる。また、失われつつあるものの調査を行って記録を残し、公開することによって、日本及び地方のアイデンティティを再認識することに寄与する

(3) 理念（何のためにするのか）

このところ道路の拡充、インフラの整備、災害、更に山村の過疎化によって昔、官道、街道、生活道、参拝道などとして多くの人に利用されてきた古道はいたるところで破壊され、崩れ、藪に埋もれて、そういう道があったことさえ人々の記憶から消え去りつつあります。しかし昔の人々は貴賤を問わず、老いも若きもその道を通じて生活を営んできていました。道は支配者側からの歴史からとらえられることが多いのですが、実はそれは道の持つ意味のほんの一部であって、実はその時代に生きていた人々すべての生きた証なのです。

いま私たちは、そういった古の人々が生きた証を発掘し、記録に残して、未来の人々に伝えていくことが必要なのではないのでしょうか。古道を調査し、資料を作成して公開することが、それぞれの地方に住む人々が自分のルーツを考え、地元を見直し、さらにはいかにそれぞれの場所に対する愛着を再発見してもらうため、ひいては日本という国が本来どのようなようであったのかを考えるためのよすがとなるのではないかと思います。

この作業は古道が時間の経過とともにさらに失われていく前におこなう必要があります。

これまでも各地各地で古道についての調査が行われ、報告がなされていますが、全国に展開する一つの団体が総力を挙げてそれを行ったことはないはずで

(4) 目標（何をするのか）

それぞれの地方に残る古道を実際に歩いて調査し、更に文献にもあたってその情報を広く一般社会、さらに後世にも残るような形で公開します。

また、加えて、人々に新しい山の楽しみ方を提案し、地元に貢献すると共に、当会においては各支部の活性化と本部、支部、支部間の垣根を超えた連携強化、さらには日本山岳会の知名度向上、日本山岳会の会員増を図っていきたいと考えております。

さらに、HP などを通じて、賛同者を増やし大きなうねりにすることが必要かと思ひます。

そのために最終的には自費出版でもいいが、後々まで残る書籍としての報告（ガイドでもよい）を出版し、ネットで広く公開することが必要だと思ひます。

(5) 具体的方法（手法）

《対象とする古道》

- ① 全国の山岳古道（旧道・廃道）、もしくは山にかかわる道
- ② 経済（塩、食糧、肥料、燃料、鉱山…）、信仰、軍事、政治、交通路（街道、裏街道）などで利用されていた古道
- ③ ストーリー性（文学、伝説、史実、詩歌など）がある古道
- ④ 遺跡や石碑などが残る古道
- ⑤ できる限り、いま脚光を浴びることなく、整備されておらず、忘れ去られようとしている古道

《古道のリストアップ》

- ・ 支部枠：各支部から地元の古道を推薦（1支部3～5本）
- ・ 本部枠：本部の委員会・同好会から推薦（1組織3～5本）
- ・ 個人枠：会員個人による推薦（1人3本まで）

それぞれつながる道はつなげ、枝道も加え、120本を選んで調査し踏査する。ただし、できうる限り多くの道を取り入れ（周辺情報）、情報のデータベースを作成する。

《調査の方法》

① 調査票などの準備

出版、WEBでの公開も見据えて、地図への記入とその解説が記載できるようなノートを用意。

② 調査方法

まず、情報と文献を収集して、古道がどこからどこに向かいどのように利用されていたかをしらべ、その上で実地の調査（地元の研究者などへの聞き取りも含む）を行う。あとから疑問に思うことがあった場合は1か所1回だけではなく、再調査も行う。調査については写真をできるだけたくさん撮って、報告がビジュアルなものになるよう配慮する。

③ 調査結果

調査の結果について更に文献などもあたって地誌民俗歴史も含めた古道のみに終わらない情報のデータベースを作成。それをベースに後々まで残る書籍（できるだけ各地の図書館に入れてもらう）を出版し、同じ内容をWEBで公開する。

(6) スケジュール

- ① プロジェクトチームを立ち上げる（2020/7/31）
- ② サンプル作成（2020/9）
- ③ 支部合同会議（2020/9/26）で、支部に具体的な依頼を発表
- ④ 会報で発表（10月号）
- ⑤ キックオフ発表会を行う
- ⑥ 広報開始、各組織でのリストアップ：2020/10～2021年度
- ⑦ 対象とする全国の道を決定：2021年4月ごろから順次決定していくが、最終的には2022年夏ごろ
- ⑧ 踏査実行（取材など）：③に合わせ順次実行していくが、最終的には2024年度末
- ⑨ webサイト作成（紙はあわせて検討）：③と同時に作成開始。同時進行し完成は2025年10月

(7) 付帯事項

- ① 全国山の日協議会と連携を諮る。
- ② 広報活動を行い、全国に協力者（一般人）を呼びかける。
- ③ 自治体などとコラボで古道整備などを行う。
- ④ 古道調査や整備などで、寄附活動につなげる。
- ⑤ 古道に道標を置き、安全登山を図り、あわせて観光の振興に付与する。

— 山岳古道調査プロジェクトメンバー —

近藤雅幸（PL）、古野淳、永田弘太郎、飯田邦幸、節田重節、石井秀典、鎌田典子、新田由里子、吉川三鈴、小林敏博、青坂健一郎、内山雄介